

文学部学外活動応援奨学金 報告書

「中国地方における卒業論文作成に向けた史料収集およびフィールドワーク」

日本史学専攻4年

16E2123017F 大沼大晟

はじめに

私は3年間、日本史学専攻において歴史研究の基礎を学び、また深めてきた。その過程で特に関心を持った時代が幕末維新时期であり、特に幕末に広島藩がどのような役割を果たしたかということや幕末政治の大きな転換点となったといわれる幕長戦争について学問的関心を持った。そこで私は卒業論文のテーマを「幕長戦争における広島藩領戦場地域の動向」と定めた。

幕長戦争は禁門の変、第一次長州出兵を経て慶応2年（1866）6月7日大島口において開戦した。広島藩領が戦場となる芸州口は6月14日に開戦した。芸州口における幕府軍の編成は主に彦根藩軍、高田藩軍、和歌山藩軍、幕府歩兵隊で成り立っていた。これらから成る幕府軍と長州藩軍が広島藩領佐伯郡の大竹村や大野村などで約3ヶ月に渡って戦闘を行った。長州藩軍が優勢に戦争を進め、広島藩領は一時、長州藩軍に占領されている。幕府は将軍家茂の死去を理由として長州藩へ休戦を持ち掛け9月2日に幕府代表の勝海舟と長州藩代表の広沢真臣、井上馨らの会談により休戦に至った。

先行研究では幕長戦争の意義は、長州藩を攻撃した幕府が敗退したことにより、その権威を失墜させ、幕府権力解体の上で重要な転換点となった戦争と指摘されている。幕長戦争に関して、長州藩側の史料に依拠した一面的な理解が従来なされてきたと言えるが近年、多角的な視点から論じるという動向がある。例えば三宅紹宣氏はこれまでの西洋式兵器の優秀さによって長州藩軍が勝利したという通説を批判し長州藩軍が戦いを有利に進めた要因を多数解明している。その長州藩軍の勝因の一つとして広島藩領において民衆に配慮した施策を行って民衆を味方につけたことを挙げ、これに対し幕府軍の敗因として広島藩領の民衆を抑圧したことによる民衆の反発を挙げている。

また幕長戦争における広島藩領の村落の動向を研究したものとして、豊田寛三氏の研究が挙げられる。豊田氏は広島藩領賀茂郡を中心に幕長戦争が農民・町民・広島藩に与えた影響について考察し、幕長戦争によって広島藩の藩政改革が失敗したことと、物価の高騰・莫大な夫役賦課等によって経済が破綻し領民の藩に対する信頼低下を招いたことを指摘している。ただし賀茂郡は幕長戦争において戦場にはなっていない地域である。

以上のような幕長戦争における広島藩領の動向について論じた研究がなされてきているが広島藩領の戦場地域についての研究は不十分であると考えられる。幕長戦争における広島藩領の戦場は戦争の被害にあったというだけではなく、広島藩領にも関わらず幕府軍芸州口先鋒である彦根藩軍や高田藩軍、和歌山藩軍が陣を置き、開戦後には長州藩軍に占領されるという特異な経緯を持つ地域と言える。広島藩領から幕長戦争を論じることで幕長戦争

が幕末政治に与えた影響に関して新たな見解が生まれると思われる。また広島藩の幕長戦争後の幕末政治への関わり方についても明らかにすることが出来ると思う。

以上のような問題意識から、本学外活動は幕長戦争において戦場となった広島藩領の史料や広島藩領に陣を置いた幕府軍や占領した長州藩軍と長州藩の支藩である岩国藩の史料の調査、また幕長戦争において広島藩と共に長州藩と幕府の周旋を行っていた鳥取藩の史料調査を行うことを目的とした。

1、調査概要

上記の目的から本活動においては、卒業論文を多角的かつ詳細にするため、幕長戦争における広島藩領に関連のある、中国地方の山口県、広島県、鳥取県に伝えられる史料の調査を行った。

7月25～27日には山口県文書館、28日には岩国徴古館、7月29～8月1日には広島県立文書館、2日～3日には鳥取県立博物館においてそれぞれ調査を行い、計244点の史料の調査を行った。以下でそれぞれの史料所蔵施設における調査内容を報告する。

2、山口県文書館における調査 計37点



山口県文書館には主に長州藩の史料が多く残されている。幕長戦争時に長州藩は隣国であり以前から交流のあった広島藩に幕府との周旋を度々依頼しており、また芸州口の開戦後には幕府軍を敗走させ、広島藩領を占領している。これらに関する長州藩側の史料の調査

を主に行った。また幕長戦争後に結んだ、薩長芸三藩同盟関連の史料の調査も行った。

調査資料

- ・毛利家文庫 四境戦争一件

「御盾隊芸州戦争略記」「元第五大隊芸州口戦争日記」「諸口戦争注進控」

「諸口戦争場役夫之者被遣物控」

- ・毛利家文庫 維新記事雑録

「明治維新の際における芸藩の活動」

「遊芸問答」「宮津藩士依田某小瀬川戦死実況」

その他 5 点

- ・毛利家文庫 両公伝

「芸州国合戦之節諸出張其外」

- ・徳山毛利家文庫 擬対問録

「芸藩諸御願伺等控」「芸藩江応接覚」

- ・宇野家文書

「干城隊大隊御盾隊御人数小瀬川口御出帰高森御休泊諸宿仕出帳」

「諸隊小瀬川口御出張之御人数高森御休泊諸宿仕出帳」

「農兵小瀬川出張一件」

その他 1 5 点

- ・一般郷土資料

「防長征伐騒動洛書記録」

- ・原田家文書

「遊撃軍堀江七之助書状」

佐々木均文書

「閑居録 旧長州藩遊撃軍隊士回顧録」

佐川家文書

「芸藩献言」

3、岩国徴古館における調査 計13点



岩国藩は長州藩の支藩であり長州藩と幕府や諸藩との周旋役的な立場にあった。特に幕末時の藩主の吉川経幹の活動は『吉川経幹周旋記』の記述に詳しい。岩国藩は広島藩との関係も深く、幕長戦争時にも多くの交流があったことが知られている。また芸州口の戦いにおいては長州藩軍と共に幕府軍と交戦し広島藩領を占領している。岩国徴古館には岩国藩の藩政史料が寄贈されており、その中でも幕長戦争関連の史料や幕長戦争が起きた慶応2年時の史料の調査を行った。

調査資料

・吉川家寄贈資料

- 「慶応2年芸州応接一件史料」
- 「鹿児島藩長州征伐記・彦根藩勤皇始末記（写）」
- 「岩国藩における諸隊の沿革」
- 「御納戸日記」
- 「仙鳥館日記」
- 「御用所日記」
- 「日載」
- 「経幹公死去前後の日記」
- 「中軍焚出其外米銀仕出小日記」
- 「戦争諸口報告書」
- 「仮控（中軍）」
- 「去ル寅年戦争之節怪我致候者御扶持其外米銀御入目小日記」
- 「高田藩征長諸記・江田長芳征長雑記（写）」

4、広島県立文書館における調査 計93点



広島藩の藩政史料は明治期に起きた広島城本丸にあった史料庫の火災や原爆投下による史料の散逸と焼失により多く残されておらず、その研究は後世の編纂物である『芸藩志』に依るものが多い。しかし、広島県立文書館に所蔵される広島県大竹市の和田家文書は幕長戦争における戦場地域の様子が詳細にわかる史料であり、地域に対する藩の対応や地域から藩への要求などが分かる。今回はこの和田家文書の史料を中心に調査を行った。

調査資料

・和田家文書

「急場手当米買入算用帳」「佐伯郡中道村御困穀御勘定帳」

「佐伯村々当御年貢御勘定目録控」「騒動中御出張御役方様御賄取約メ帳」

「砲台築造ニ付銀四拾目下渡シ」「奥筋村々窮民人名書抜帳」

その他86点

・今中文庫（複製資料）

「今中相愛日記」

5、鳥取県立博物館における調査 計101点



鳥取藩は幕長戦争時に広島藩と共に長州藩と幕府を周旋していた藩の一つである。鳥取藩政史料は鳥取県立博物館に膨大に残されており、その史料の中から広島藩と幕長戦争に関連する史料の調査を行った。

調査資料

- ・鳥取藩政史料

「第二次征長関係書状 写」「十一月十二日仙台人兩人長討ヨリ帰京 口上写し」

その他75点

- ・旧鳥取藩士岡崎家資料

「石井十右衛門書状」「某女書状」

- ・旧鳥取藩士田中俊民家資料

「達書」11点、「池田兵庫介用状」9点、「鵜殿主水介用状」「角田捨藏書状」

・旧鳥取藩士山田家資料

「日記」(文久4年正月元日～9月9日)

「日記」(元治元年5月8日～10月10日)

「日記」(元治元年11月24日～同2年12月29日)

「日記」(慶応2年正月元日～12月晦日)

「日記」(慶応3年正月元日～10月12日)

「覚書」(広島出張日記)「雑説付留メ」(京都・広島事情)

「岡尾朋之丞・杉山七郎於周布村応接書取」

おわりに

本活動で多くの史料の調査を行ったことにより、卒業論文に向けた多くの史料を調査することができた。本活動を通じてより詳細な卒業論文を執筆できたと考えている。今後、調査した史料の内容を精査して執筆に取り組みたい。

私は大学院進学を希望しており、大学院進学後には、広島藩が幕長戦争後の幕末政局にどのような意識で関わったのかを幕長戦争の影響も踏まえて明らかにしたいと考えている。従来、広島藩は「日和見藩」と評価されてきた藩である。そのため薩摩藩・長州藩などの西南雄藩比べて幕末政治に影響を与えなかったと考えられ研究の対象から外されていたといえる。しかし近年では「日和見藩」と位置付けられていた多くの藩も幕末の政治情勢の中で藩の方針を決定し、その基づく政治行動を行っている指摘され、その政治行動は幕末政治に影響を及ぼしたと考えられるようになってきている。私はこの研究動向を踏まえ広島藩を安易に「日和見藩」と位置付けるのではなく、藩の内部でいかに藩の方針を決め、政治行動をとっているかを研究し、その広島藩の行動が幕末政治にどのような影響を及ぼしたのか検討したいと考えている。広島藩は幕長戦争において戦争被害に合い、幕府軍在陣のため多大な出費をしているというところに他藩と大きな差異がある。また政治行動においても「日和見藩」と評価された他藩に比べて表立った行動をしているといえ、薩摩・長州と幕府打倒の同盟を結んだ一方で土佐藩と協議しながら大政奉還の建白をするという特殊な政治行動をとった藩であり研究価値があると考えられる。

今回の調査では幕長戦争における広島藩領関連の史料が主な調査対象であったが、時間の許す限りでは幕長戦争後の広島藩に関する史料の調査も行うことができた。大学院進学前にこれらの資料を調査できたことは大学院進学後の研究活動の大きな礎になったと思う。

また今回の資料調査において調査しきれなかった資料があることも事実である。本活動の経験を活かし今後も精力的に史料調査を行いたい。

最後となりますが本奨学金のエントリーシートや計画書、報告書の執筆や調査史料に関して、ご指導いただいた宮間純一先生、ご協力いただいた文学部事務室の方々、各史料所蔵施設の方々に感謝申し上げます。